気軽にヤらせてくれる巨乳のご令嬢が遊びに来た！

- ヤりまくり正乗位
- 魅惑のパイズリ
- 目隠しフェラ
- プールで即ハメ
- むっちり尻コキ
- バックで交尾
- 淫乱騎乗位

基本CG：7枚

大人の階段を上った。
「んんっ❤…エッチってけっこういいものね…だがしの次くらいに好きになりそう…んあっ❤そこぉ❤」
「にしても7回もしたのに…これってていつ終わるのかしら…ふぁぁぁっ❤」
ずぷっ
「世間体というか周りの目もあるから……こんなことしてるのバレたらと思って……ねえ聞いてる？んあぁっ…ねえ…❤」
「激しっ…ダメっ…また…そこぉ弱いのぉ❤掻いちゃダメぇぇっ❤」
……そこおちんちんで強く引っ掻いちゃダメぇぇっ❤」
「私またっ…またイっちゃうっ…そんな激しくされたらぁ…あっ❤」
ぷるっ
イク

「イクううううう❤」
「……な……中に出してる……ゴム無し許したけど中はダメって言ったのに……もう……んああっ❤奥にこすりつけて一滴でも多く精液を子宮に残そうとしないで……」
ドクドクドク

おっぱいが好きと素直に激白したらパイズリをしてくれた。
「凄く嬉しそうね……視線でなんとなく分かってたけど
こんなに興奮するほど劣情を抱えていたなんて知らなかったわ」
「ねえ気持ちい？憧れのおっぱいにおちんちん挟まれて…
こうやってパイズリされて❤」

「好きなだけ気持ちよくなっていいのよ…
私も気持ちよさそうにしてる顔見るの面白いから❤」
「なあに…もう出ちゃうの？思いっきり射精して❤」

『きゃっ…爆発したみたい……すごい量❤…ふ…ふ…体中べとべと❤』
白濁液に汚されながら無邪気に笑顔を振る舞う姿はエロかった。
『けっこう楽しかったわ❤…また気が向いたらしてあげる
…でも勘違いしないで……誰にでもこういうことする訳じゃないから』
きゃっ
ビュッ
ビュ
ビュ
『ふ…体中べとべと』

ききふがしゲーム中。
「……これ……ふがしじゃないわ！」早々にイタズラがバレた。
「……あやうく思い切り噛むとこだったわ」
「……だがしを堪能している時にエッチなことをするのは止めて欲しいのだけど？」
どうしようか黙って考える。し

「私今両手縛られて視界もゼロだから
黙られると怖いわ……。
今気づいたけど手まで縛る必要なかったし
……ちょっと縛ったの一回解いてくれるかしら？」
再度これはふがしだと言ってみる。
「ふがし？だからそれ……おちんちんじゃない！」

「んぶっ……じゅる……つぷ……」
（なにするの…なんかいつもより固い…縛らせた女の子に無理やりしゃぶらせて興奮するなんて……）
「じゅっ……ぢゅぷっ…ぢゅぽっ…くちゅ❤」
（一回満足させてあげないと聞く耳持ってくれなさそう……仕方ないわ）

ガバッ

ドン

キュ

ゆさ

ゆさ

「ちゅっ……ペロペロ……ジュポジュッポジュポジュッポ❤」
（私まで変な気になってきたわ……息苦しくて大変だけど喜んでくれてるみたい……出そうな感じしね……ペース上げてって……たくさん出しなさい！）

チュッポ

『ハー……ふぅ……ふぅ……」
（いろんなとこにかかってる……気がする）
『気のせいかしら……重点的に胸にかけられてる気がするわ……はぁ……はぁ』
『もう……きふがしは一旦中止ね……
アナタのふがしから出た白いのでべとべとだから……』
『はぁ……はぁ……？そろそろ解いてちょうだい……ふがしを今度は下の口で食べてみてって……」
この後、腰についてる特性のふがしでアンアン言わせてあげた。

夏のプールにて。太陽に負けないくらい
リビドーを燃え上がらせていた。
「奥うう❤んあああっ…この体勢…
いつもと違うとこ擦れてっ❤ああん❤」
パンパン突かれて…いやらしい音鳴ってる❤
この音興奮するわ❤んあああっ…気持ちよくて
…おまんこぐちょぐちょぐちょぉぉ❤」
ぐちゅ
ぐちゅ
「こんなとこで
「もっと…もっと来てぇ…だっ
ぐちゃぐちゃにしてええ❤んあああ
「おちんちんピュッピュしちゃう？
…いいわよ好きなだけ出して❤
…好きな所に濃くて苦い精液いっぱい出してぇぇぇ❤」
ずぷっ

「あふうううんん❤
おまんこイっちゃうううう❤」
性欲に流されて激しくイったほたるさんの
表情は、満面の快楽と少しの
罪悪感が入り混じっていた。
「……気持ち……よかった……」

「……お腹が熱い……マグマみたいな
精液がお腹の中に入ってる……❤」
遠くでは友人がプールで遊んでいた。
その後、何食わぬ顔で落ち合った。

パンスト越しの尻がエロかったのであえて脱がずに尻でしごいてもらった。
「んしょ……これでいいのかしら……？」
むっちりとした尻肉の谷間に肉棒が埋まる。
「う、動くけど……そんなに気持ちよくはないと思うわよ……ん……」

トス

「これでいいの？」

いいわよ
好きなだけ
出して♥

恥ずかしさを押しのけるように早速動き始めた。
ゆりかごのようにでかい尻が前後に揺れる。
「性感帯に刺激がなくても……
エッチしてるってだけで、けっこう気持ちは
良くなるものね……なんだか火照ってきたわ♥」
発情して腰の振り方がより妖艶になっていく。
そしてあっという間に快感が頂点に達した。

「んんっ❤……お尻で射精させちゃった……なんかどんどん変態になっていく気がするわ」
否定的な言動とは裏腹に、
その瞳は恍惚に満ちていた。

ん、っ♡

気持ちよさそうに射精してるわ

ぱ

ぱ

ぱ

ぱ

まはは、

「っ、いいかしら……？
これ中途半端にアソコが擦れて……
その……ムラムラするわ！」
その後、ムラムラしたまま、
ほたるさんは帰っていった。

「ダメっ…こんな獣みたいに犯されて……恥ずかしいっ❤」
けど…気持ちよすぎてぇ❤」
時間が経つに連れほたるさんの反応が良くなっていく。
そして、大洪水のアソコをこれでもかというくらい
突き倒しその最奥で果てた。

遊びに来たほたるさんと
大人の遊びをすることに。
「あんっ❤あんっ❤…激しいっ…
そんなに強くされたらあっ
…あうっ…壊れちゃう❤」
「んあああっ❤弱いところ擦れるっ
…んあああっ❤そんなに責めないでっ
…そこばっか責められると
すぐイっちゃうからぁ❤」

「赤ちゃん……できちゃう……はぁ……はぁ……」
イキ疲れてぐったりとしている姿は、
普段の軽快な立ち振舞を微塵も感じさせなかった。
んおおぉ
ソクまぐ
ボロロロ
「イクうううう❤」
「おまんこイっちゃうううう❤」
本子どもぱどぱと種付けをする最中、
能宮口は絶えず吸い付き
を満たそうとしていた。

ほたるさんは度重なるエッチでどんどん淫乱に開花していった。
「奥ごりごり擦れてるぅ…❤この太くて硬いうまい棒…何度食べてもなくならないから最高だわ❤」
「だから止めどきがわからなくてずっと食べ続けてちゃう……下のお口で何度も何度もむしゃぶりついちゃうわ❤」
キキ
ぐちゅ
ハイ
おしゃ
ブルン
「アナタがいけないのよ……こんな美味しい味私に教えるからぁ……もう毎日でも食べたいくらい……これ好きぃいい❤あはあはあんもうダメ……たくさん中に出してっ……私もたくさんイっちゃうからぁぁぁ❤」
ブルン
に気持ちっ
ハイ

ぎゅ
ぐりぐり
ぐりぐりぐり